

総合力を進化させる

Global First-Tier Companyへ

代表取締役社長
ほり けん い ち
堀 健一



三井物産の価値創造

三井物産は「世界中の未来をつくる」というMissionを掲げ、事業を通じてさまざまな社会課題の解決に貢献することで成長を続けています。当社のグローバルかつ幅広い事業ポートフォリオは、新たな事業を「創る」、コア事業を「育てる」、そしてコア事業とその周辺事業を組み合わせた事業群を形成し「^{ひろ}展げる」ことで絶え間なく変革を続けています。こうして蓄積された多様な事業・知見を掛け合わせることで、単独では生み出せない新たな価値（Combinatory Value）を創出しています。当社は、このビジネスモデルと事業ポートフォリオを通じて、複雑化する社会課題に対して産業横断的な現実解を提供します。

非線形のCombinatory Value

データ/AIを活用し、多様な事業・知見を産業横断的に結びつけ、単独では生み出せない新たな価値を飛躍的に創出する

創る

育てる

^{ひろ}
展げる

育てる・^{ひろ}展げるフェーズを支えるミドルゲーム 「ミドルゲーム」事例▶

投資後も事業環境の変化を先読みしながら、高機能トレーディングや既存事業強化、赤字事業削減、多軸のポートフォリオ・マネジメント、データ/AI活用による価値顕在化等を通じて、継続的な事業価値向上を図る取組み

価値創造を支える企業文化

挑戦と創造

変化を恐れず挑戦し、
新たな価値を創造し続ける

自由闊達

多様な知見を掛け合わせ、
自由な発想と議論から価値を生み出す

人の三井

強い「個」を尊重し、一人ひとりの挑戦が
新たな価値創造を切り拓く

Mission

世界中の
未来をつくる

> Introduction

- 01 CEOメッセージ
- 05 三井物産の価値創造
- 06 CFOメッセージ
- 09 中期経営計画2029
- 13 中期経営計画2026で積み上げた成長基盤
- 14 Our Reporting Approach

> Introduction

- Gate 1
- > 価値創造の原点
- Gate 2
- > 財務・ポートフォリオ戦略
- Gate 3
- > 持続的成長
- Gate 4
- > 経営基盤
- Gate 5
- > Data

強固な財務基盤を維持しつつ、 ダイナミックなキャピタル・アロケーションを実行し、 ROEの向上に取り組みます

代表取締役 常務執行役員
CFO (チーフ・フィナンシャル・オフィサー)
たなか まこと
田中 誠



CFO就任にあたり、特に大切にしたい想いや 考えを聞かせてください

入社以来、長年にわたり財務業務に携わってきました。当社の財務業務には、取引金額の大きさに加え、市場と24時間向き合う為替・金利ディーリング等、常に緊張感のある対応が求められる仕事もあります。こうした経験を通じ、多くの方々に支えられて仕事ができていることを実感するとともに、一人ひとりのバックグラウンドや置かれた状況を理解し、尊重し合うことが、組織の持続的な成長につながると考えるようになりました。

だからこそ、社内外を問わず仕事を通じて接する人の立場や意見を尊重しながら、一人ひとりが自らの経験や能力等の強みをもとに考えを率直に発言し、議論し合える自由闊達な企業風土のより一層の醸成を図ることで、当社の「挑戦と創造」を支えていきたいと考えています。

2026年3月期末時点で、当社の総資産は約20兆円、有利子

負債は約5兆円と、過去最大規模に達しています。CFOとして、当社が長年築き上げてきたリスク管理の考え方を継承しながら、財務健全性を支える連結経営基盤の整備や内部統制の強化をさらに進めるとともに、健全なリスクテイクを後押しし、企業価値向上に取り組んでいきます。

中経2026の総括と、中経2029で目指す 戦略について教えてください

中経2026の3年間においては、不確実性とボラティリティの高い経営環境が常態化する中でも、5期連続で1兆円規模の基礎営業キャッシュ・フローを実現し、当社の強固なキャッシュ創出力をあらためて実証できました。

また、既存事業の強化やターンアラウンド、成長投資の収益貢献により、基礎収益力は着実に拡大し、2027年3月期は当社史上最大となる1株あたり25円の増配を予定しています。さらに、2030

年以降の収益の大きな柱となる大型投資も実行し、充実した3年間だったと評価しています。一方で、事業ごとの収益性・資本効率のばらつきや赤字・低収益事業といった課題も明らかになっており、投資規律をより一層高める必要があると考えています。

中経2029では、経営環境の変化に応じたキャピタル・アロケーション（資本の最適配分）の実行と、ポートフォリオ管理の強化が特に重要であると考えています。特に、ROEを重要指標の中心に位置づけ、当期利益や基礎営業キャッシュ・フローに加えて、ROIC（投下資本利益率）も重視していきます。

中経2029で掲げているROE12%という目標には、 どのような経営の意思が込められているのでしょうか

ROE12%には、資本市場から求められるリターンを上回り続けるという、明確な経営意思を込めています。2030年以降は大型投資案件の収益貢献開始により、さらに高いROEを目指していますが、そこに至る道筋としてROE12%という目標を確実に達成したいと考えています。そのためには、ターンアラウンドを含む既存事業の基礎収益力向上、ポートフォリオの入替え等の地道な取組みの積上げが必要です。

また、ROE向上にあたっては、分子の当期利益の拡大と同時に、分母である株主資本を適切に管理する必要があります。中経2026においても増配や機動的な自己株式取得を実行しましたが、中経2029では株主還元による株主資本の管理をより意識して取り組んでいきます。

加えて、ステークホルダーの皆様との対話も不可欠です。ポートフォリオ戦略や投資判断の透明性、各種KPIの進捗状況や資本コストに対する考え方の共有を通じて、当社への理解を深めていただくことが、企業価値の最大化につながると考えています。

> Introduction

- 01 CEOメッセージ
- 05 三井物産の価値創造
- 06 CFOメッセージ
- 09 中期経営計画2029
- 13 中期経営計画2026で積み上げた成長基盤
- 14 Our Reporting Approach

> Introduction

- Gate 1
> 価値創造の原点
- Gate 2
> 財務・ポートフォリオ戦略
- Gate 3
> 持続的成長
- Gate 4
> 経営基盤
- Gate 5
> Data

中経2029の戦略として挙げられた、
キャピタル・アロケーションについて教えてください

中経2029におけるキャピタル・アロケーションの基本的な考え方は、「強固なキャッシュ創出力を基盤に、経営の選択肢を幅広く持ち、経営環境の変化に応じて機動的に資金配分を行うこと」にあります。

当社の安定したキャッシュ創出力は、成長投資・株主還元・財務健全性のすべてを支える「源泉」であり、中経2029でも、この強みを起点に資金配分を行っていきます。一方で、経営環境の変化はその大きさ・速さが共に増しており、これまで以上に将来の不確実性を前提とした経営が求められています。こうした環境下では、資金の使途をあらかじめ固定するのではなく、投資や借入返済、株主還元等を適切なタイミングで実行できる柔軟性を確保すること、つまり、経営の「選択肢」を常に確保することが、より重要だと考えています。

この「選択肢」を支える重要な仕組みの一つが、資産リサイクルの高度化です。当社はこれまでの取組みに加え、戦略的かつ機動的なExit判断と、より収益性・成長性の高い領域への再投資をさらに推進することで、ポートフォリオの質をより一層高めていきます。

資産リサイクルの進捗や市況・金利動向といった外部環境、そして成長投資候補となる案件に応じて、資金支出の規模やタイミングを機動的に見直すことができる柔軟性こそが、不確実性の高い時代における競争力の源泉になると考えています。

事業ポートフォリオの強化に関して、
目指すポートフォリオの姿と、
どのように取り組むのかについて教えてください

中経2026で実行した成長投資の収益貢献が始まる中、既存

事業の進化したミドルゲーム推進も含め、各事業のROICが加重平均資本コスト（WACC）を安定的に上回る状態を目指し、更なる事業ポートフォリオの良質化を進めていきます。

ROIC導入後、ROICとWACCのスプレッド、すなわち経済付加価値を持続的に創出できているかという観点も含めて事業を検証し、保有継続の判断を行うことが浸透してきています。加えて、中経2026を通じ、ROICの改善余地がある事業が明確になっており、今後は収益性・資本回転率の改善や投下資本の適正化を一段と進めていきます。

具体的には、赤字・低収益事業におけるターンアラウンド・Exitの徹底を含む、進化したミドルゲームをこれまで以上にドライブをかけて推進していきます。赤字・低収益事業については、黒字化の可否だけでなく、将来的な成長性や当社ならではの価値創出の可能性を総合的に評価し、保有意義を判断することが重要です。当社の価値貢献により更なる成長が見込める事業については追加投資を行う一方で、そうでない事業に関してはExitを検討するなど、メリハリのある経営を徹底していきます。こうしたポートフォリオ経営を支える上で、CFO部門を含むコーポレートスタッフ部門各部の重要性は高まっており、機能発揮が一層求められています。これに応えるべく、引き続き、多様なプロフェッショナル人材の育成を進めていきます。

過去最大規模のバランスシートを踏まえた
財務健全性や財務戦略についても教えてください

当社は過去から一貫して、「強固な財務基盤の維持」と「柔軟なバランスシートのマネジメント」の両立を重視しており、この方針は変わりません。2025年は、豪州Rhodes Ridge鉄鉱石事業の権益取得をはじめ大型投資を行いました。強固な財務基盤があるからこそ、優位性のある成長投資を機動的に実行できました。また、事業ポートフォリオの多様化と再現性あるキャッシュ



創出力の向上を通じて、市況変動に対する耐性の高いポートフォリオ構築にも常に取り組んでいます。

こうした規律ある財務戦略の成果が、格付の安定につながっています。当社は、格付を客観的な視点から財務規律を検証する手段と位置づけており、格付機関との継続的な対話を通じて財務戦略を検証しています。

一方で、資本効率の観点からは一定の財務レバレッジが必要と考えており、景気後退局面においても財務基盤が大きく損なわれない水準で財務レバレッジをコントロールしていきます。

Introduction

- 01 CEOメッセージ
- 05 三井物産の価値創造
- 06 CFOメッセージ
- 09 中期経営計画2029
- 13 中期経営計画2026で積み上げた成長基盤
- 14 Our Reporting Approach

Introduction

- Gate 1
- 価値創造の原点
- Gate 2
- 財務・ポートフォリオ戦略
- Gate 3
- 持続的成長
- Gate 4
- 経営基盤
- Gate 5
- Data



適正な財務レバレッジを検討する上では、有利子負債の規模だけでなく、Debt Portfolioの質を高めることも重要です。10年超の長期借入を中心とした資金調達、返済期日の分散による流動性リスクの低減、複数通貨・市場での調達による柔軟性確保

等、より安定的かつ強靱なDebt Portfolioの構築を進めています。加えて、長年にわたり築いてきた幅広い国内外金融機関との良好な関係も、安定的な資金アクセス等の観点から当社財務戦略の重要な基盤となっています。

■ リスク管理にはどのように取り組んでいますか

外部環境の不確実性が高まる中、リスクを全社的な視点で把握し、経営判断に反映していくことが不可欠です。このような考えのもと、当社は多種多様な定量・定性リスクを全社横断で一元的に把握する「統合リスク管理」を推進しています。重要なリスクを特定し全社レベルで対応策を講じるこの取組みは、散在するリスクの積み重ねが大きな損失につながることを防ぐとともに、リスクを正しく理解し、成長機会獲得に向け、リスクの受容可否を適切に選択できる基盤ともなっています。こうした事業を取り巻くリスクも踏まえた経営判断が、全社、そして個々の事業を経営する力の強化を支える重要な要素であると考えています。

例えば、地政学的リスクについては、個別案件への対応に加え、地域・国別の分散やサプライチェーンの多層化、カントリーリスクの定期的な見直し等により、特定地域への依存を回避するポートフォリオ構築を進めています。

財務戦略との接続という観点では、投融資や商事債権、保証債務に含まれるリスクである「リスクアセット」を継続的にモニタリングし、全社としてのリスク量と耐性を可視化しています。加えて、リスクに見合うリターンが得られているのか、という観点に基づく経営管理の高度化も進めています。

当社の強みは、多様な事業ポートフォリオそのものがリスク耐性の向上につながっている点にあります。市況変動の影響を受けやすい事業とそうでない事業を組み合わせるとともに、事業・地域・時間軸の分散を図ることで、市況や景気変動に対する下方耐性の高い収益構造を構築しています。

■ 株主還元についても、考え方を教えてください

強固なキャッシュ創出力に基づき、成長投資とのバランスもとりながら、安定性と機動性の両立を図ることを株主還元における基本方針としています。還元水準は、当社では会計上の評価損益等の影響を受ける当期利益ではなく、基礎営業キャッシュ・フローを株主還元の基準としています。また、単年度ではなく3年間累計として市況変動の影響等を平準化することにより、株主還元の持続性と柔軟性も意識しています。中経2026では3年間累計の基礎営業キャッシュ・フローに対する株主還元の割合は、目標37%程度に対して53%超という水準を実現しました。中経2029は、50%超を目標とし、配当及び自己株式取得を組み合わせるという明確なフレームを設定しています。

配当に関しては、中経2029においても配当維持または増配を行う累進配当を継続し、2027年3月期～2029年3月期で1株あたりの年間配当140円を下限に設定しています。これは、中経2026までの基礎収益力拡大及び今後の更なる伸長を踏まえ、短期的な業績変動に左右されない安定的な株主還元を重視し、決定したものです。

自己株式取得に関しては、資本効率向上等を目的とした機動的な株主還元と位置づけています。投資機会との比較、株価水準、資本効率改善への効果、資産リサイクルや市況・為替要因でのアップサイドによる追加的なキャッシュ・イン等を総合的に勘案し、金額や時期も含め機動的に判断していきます。

今後も、累進配当により安定性を確保し、自己株式取得を組み合わせながら、株主の皆様のご期待にお応えできるよう、取り組んでいきます。

> Introduction

- 01 CEOメッセージ
- 05 三井物産の価値創造
- 06 CFOメッセージ
- 09 中期経営計画2029
- 13 中期経営計画2026で積み上げた成長基盤
- 14 Our Reporting Approach

> Introduction

- Gate 1
> 価値創造の原点
- Gate 2
> 財務・ポートフォリオ戦略
- Gate 3
> 持続的成長
- Gate 4
> 経営基盤
- Gate 5
> Data

2030年、そしてその先へ 信頼とイノベーションで未来をつくる



当社は、世界中で展開する多様な事業や地域、人材の知見を結びつけることで、新たな価値を生み出してきました。近年は、こうした強みに加え、各事業現場で蓄積されるデータやAIを活用することで、従来は見つけることが難しかった組合せや事業機会を発見できるようになっています。例えば、ある事業で培った知見を別の事業や地域に展開したり、異なる分野のデータを掛け合わせて新たなサービスやソリューションを創出したりすることが可能になります。当社は、プロフェッショナル人材の知見とAIの探索力を融合し、単なる足し算では説明できない飛躍的な価値を創出する「総合力発揮」の進化形として、「非線形のCombinatory Value」の実現を目指しています。

非線形の Combinatory Value

蓄積した事業知見・ネットワークと、
データ/AIを掛け合わせ、新たな価値を創出

データ/AI

資源開発

産業現場でのデータ/
AI活用による事業価値最大化
地質・操業データと現場知見をAIで統合し、
投資判断・操業最適化を高度化

金融

金融データとAIを活用し、
金融サービスの高度化を推進

不動産

不動産取引・運営の知見とAIを融合し、
業務高度化・効率化を推進

トレーディング

Trading 2.0
AIで市場構造変化を先読みし、
新たな収益機会を創出

エネルギー

ガス・電力
バリューチェーン
天然ガスの開発から液化・輸送・発電・
電力供給までバリューチェーンを最適化

ヘルスケア

Pharma Innovation
ヘルスケアとデータを掛け合わせ、
新たな医療価値を創出

電力×デジタル

米国電力
垂直統合事業
電力トレーディング・事業開発知見を活かし、
データセンターの電力調達課題を解決、
計算力供給へ展開

データドリブン経営

グループ横断でデータ/AIを活用し意思決定を高度化



グローバルマトリクス体制

15事業本部 × 地域本部・ブロック × コーポレート
事業性・戦略性・リスクを多面的に検討し、価値創造につなげる

プロフェッショナル人材

> Introduction

- 01 CEOメッセージ
- 05 三井物産の価値創造
- 06 CFOメッセージ
- 09 中期経営計画2029
- 13 中期経営計画2026で積み上げた成長基盤
- 14 Our Reporting Approach

> Introduction

- Gate 1
- > 価値創造の原点
- Gate 2
- > 財務・ポートフォリオ戦略
- Gate 3
- > 持続的成長
- Gate 4
- > 経営基盤
- Gate 5
- > Data

2030年、そしてその先へ
信頼とイノベーションで未来をつくる



Introduction

中期経営計画2029
進化した3つの攻め筋

中経2029では、中経2026で推進した3つの攻め筋をさらに進化させていきます。
複雑な社会課題やデジタル技術の進化を踏まえ、3つの攻め筋を2.0へと進化させ、信頼とイノベーションで未来をつくります。



* Anglo American Sur

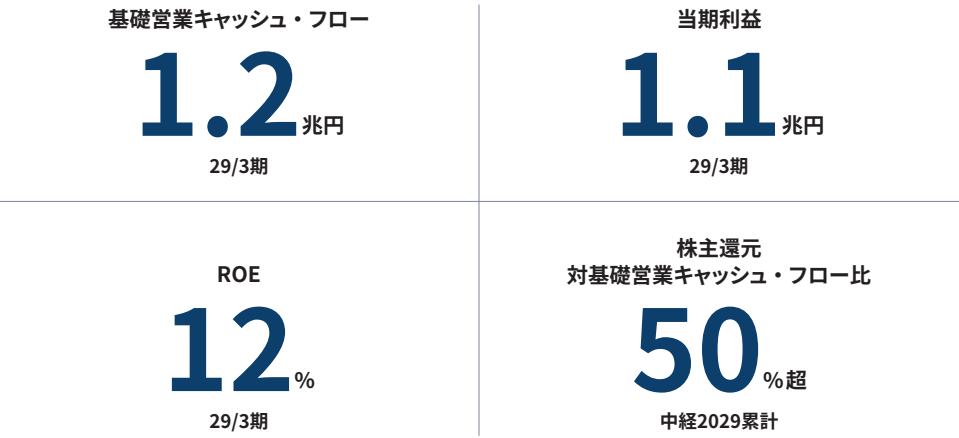
- 01 CEOメッセージ
- 05 三井物産の価値創造
- 06 CFOメッセージ
- 09 中期経営計画2029
- 13 中期経営計画2026で積み上げた成長基盤
- 14 Our Reporting Approach

- Introduction
 - Gate 1 価値創造の原点
 - Gate 2 財務・ポートフォリオ戦略
 - Gate 3 持続的成長
 - Gate 4 経営基盤
 - Gate 5 Data

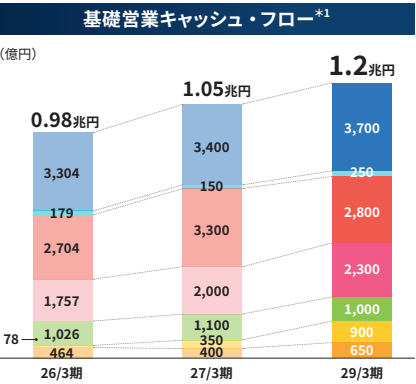


中経2029定量目標

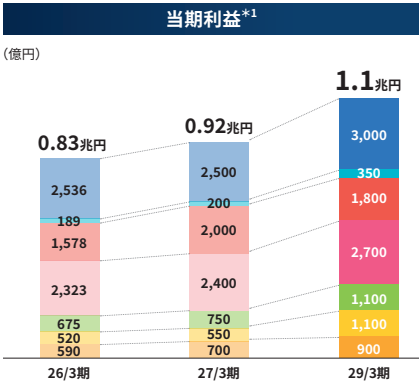
2029年3月期には、基礎営業キャッシュ・フロー1.2兆円、当期利益1.1兆円、ROE12%を目標としています。株主還元については、中経2029期間（2027年3月期から2029年3月期の3年間）累計で基礎営業キャッシュ・フローの50%超を予定しています。これらの目標の実現に向け、強固な基礎収益力を基盤に、進化した3つの攻め筋2.0を通じた成長投資、既存事業強化、資産リサイクルを組み合わせてながら、持続的な成長を実現していきます。



セグメント別 中経2029定量目標

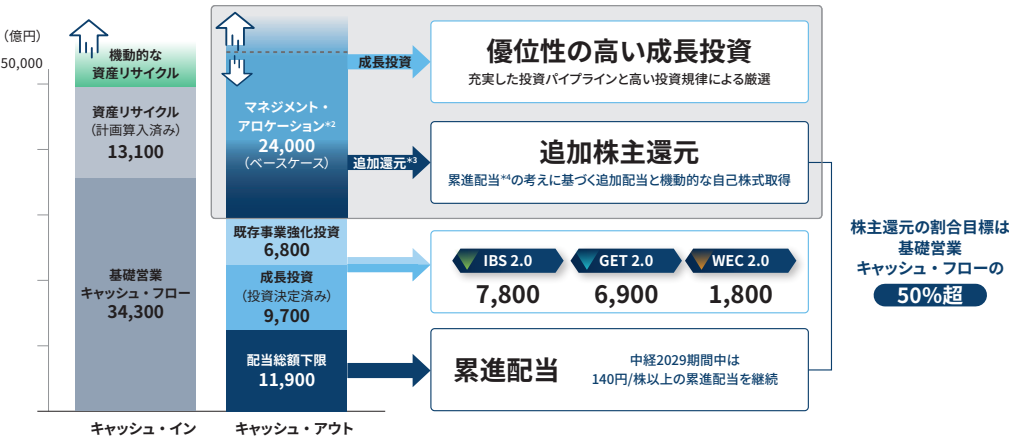


*1 その他、調整・消去の表示は省略



キャピタル・アロケーションの考え方

中経2029では、成長投資、株主還元、資産リサイクルを組み合わせながら、持続的な成長を実現していきます。キャッシュ・アウトには、既存事業強化投資、進化した3つの攻め筋2.0を中心とする成長投資、累進配当に基づく株主還元を織り込んでいます。また、マネジメント・アロケーションに柔軟性を持たせることで、不確実性の高い事業環境においても、優位性の高い成長投資や追加株主還元を機動的に実行できるよう、経営としての選択肢を確保しています。



*2 投資機会と経営環境を総合的に勘案し、成長投資と追加還元へ柔軟かつ戦略的に配分する資金の原資
*3 2026年8月4日付で2,000億円の自己株式取得を決定
*4 配当維持または増配

セグメント	主な取組み
金属資源	鉄鉱石・銅・原料炭事業の良質化、生産拡大、優良機会の取込み
鉄鋼製品	既存事業良質化、グローバルトレーディング拡大、バリューチェーンの高度化
エネルギー	新規案件生産開始（天然ガス、次世代燃料他）、建設中案件開発、ボルトオン投資、LNG物流拡充
モビリティ・デジタル・インフラ	モビリティの事業基盤進化と新事業創出、デジタル・電力バリューチェーンの収益拡大
化学品	グローバルトレーディング拡大、フードサイエンス事業成長、既存事業良質化
ウェルネスエコシステム	病院事業の成長、ヘルスケア×データ事業創出、サービス事業の装置産業化推進、タンパク質事業拡大
イノベーション & コーポレート開発	AI/DXソリューション・BPO事業、金融ソリューション、次世代ビジネス拡大

- 01 CEOメッセージ
- 05 三井物産の価値創造
- 06 CFOメッセージ
- 09 中期経営計画2029
- 13 中期経営計画2026で積み上げた成長基盤
- 14 Our Reporting Approach

- Introduction
- Gate 1 価値創造の原点
- Gate 2 財務・ポートフォリオ戦略
- Gate 3 持続的成長
- Gate 4 経営基盤
- Gate 5 Data



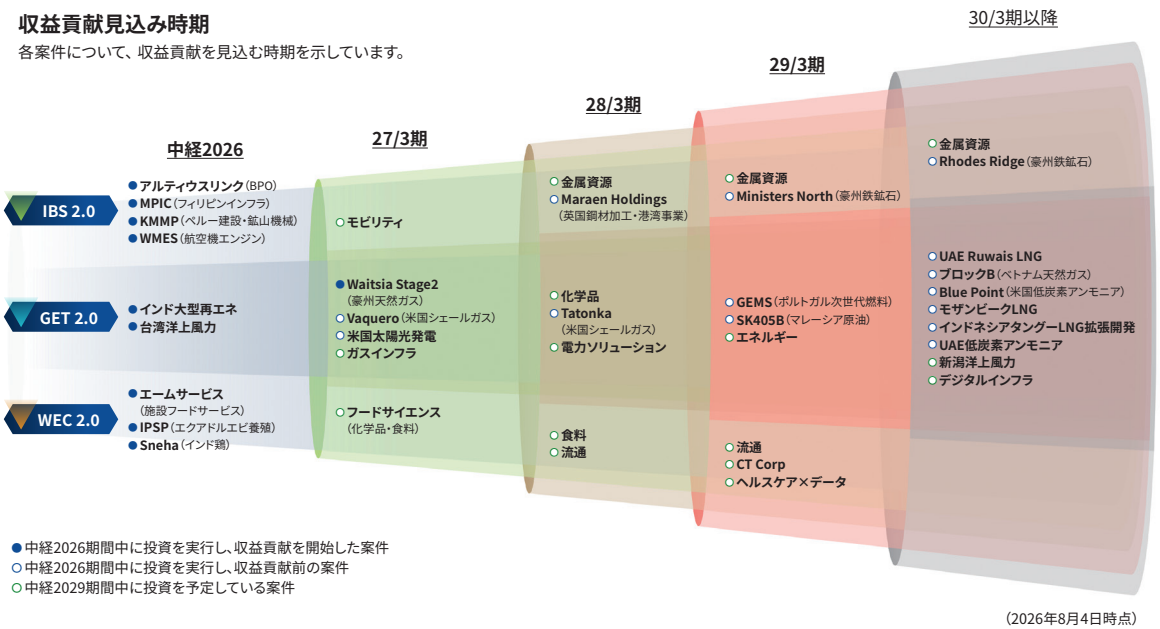
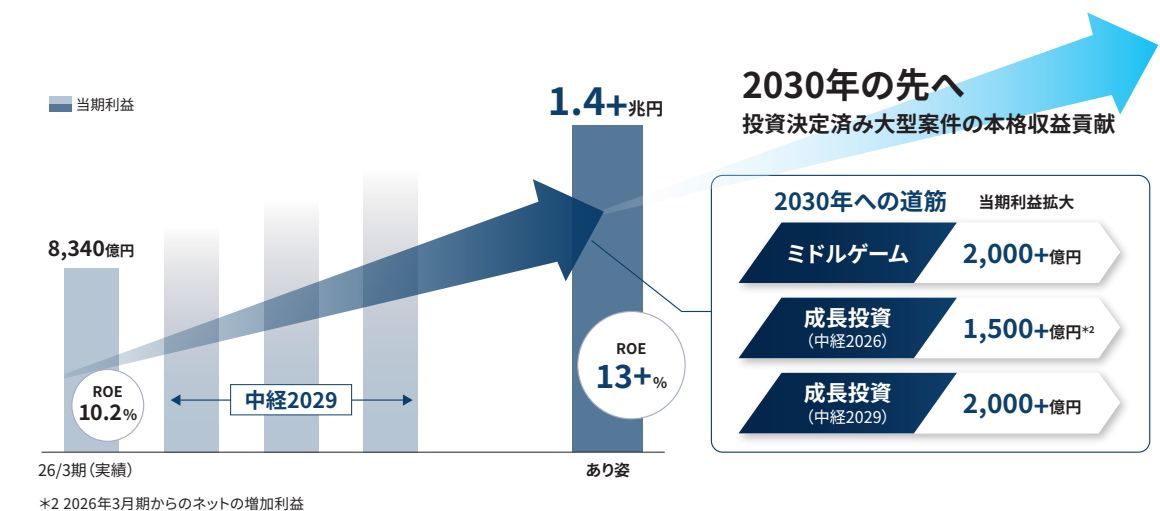
2030年の先へ

進化したミドルゲーム^{*1}、中経2026で実行した成長投資の収益化、及び中経2029で推進する新たな成長投資を通じ、2030年に向けて当期利益1.4兆円超、ROE13%超を目指します。2030年以降は、すでに投資決定済みの大型案件による本格的な収益貢献に加え、競争力の高い優良資源の開発や、ヘルスケア分野等で蓄積するデータ資源の高度活用を通じ、更なる成長と価値創造を実現していきます。また、差別化された競争力、変革を続ける収益基盤、強い「個」による価値創造をCorporate Strategyとして掲げ、進化した3つの攻め筋2.0を通じて、持続的な成長を実現していきます。

^{*1} 高機能トレーディングや既存事業強化、赤字事業削減、多軸のポートフォリオ・マネジメント、データ/AI 活用による価値顕在化

成長投資による収益貢献

進化したミドルゲームを通じた既存事業の強化に加え、進化した3つの攻め筋2.0に沿って、事業軸・地域軸・時間軸のバランスを意識した成長投資を推進しています。成長投資案件には、投資後早期に収益貢献する案件に加え、2030年3月期以降に本格的な収益貢献を見込む大型案件も含まれており、収益基盤を段階的かつ継続的に強化していく計画です。成長投資案件は、6兆円超の案件パイプラインの中から、戦略性やリスク・リターン等を踏まえ厳選しています。不確実性の高い事業環境下においても、競争優位性のある希少な投資機会を機動的かつ着実に捉えながら、中経2026で投資決定した案件の収益化に加え、中経2029で推進する新たな成長投資を通じ、持続的な利益成長を実現していきます。



> Introduction

- 01 CEOメッセージ
- 05 三井物産の価値創造
- 06 CFOメッセージ
- 09 中期経営計画2029
- 13 中期経営計画2026で積み上げた成長基盤
- 14 Our Reporting Approach

> Introduction

- Gate 1
- > 価値創造の原点
- Gate 2
- > 財務・ポートフォリオ戦略
- Gate 3
- > 持続的成長
- Gate 4
- > 経営基盤
- Gate 5
- > Data

中期経営計画2026で積み上げた成長基盤

中経2026期間中は、地政学的リスクの高まりやインフレ進行等、外部環境が大きく変化する3年間となりました。そのような環境下においても、当社は機動的なポートフォリオ運営と既存事業強化・成長投資を着実に推進し、5期連続で1兆円規模の基礎営業キャッシュ・フローを創出しました。また、既存事業の強化、効率化・ターンアラウンド、新規事業育成を通じて、基礎収益力は着実に拡大しました。厳格な投資規律のもと成長投資と資産リサイクルを推進し、財務健全性を維持しながら、株主還元及び資本効率向上を実現しました。

定量目標と実績比較	定量目標	中経2026実績
基礎営業 キャッシュ・フロー	10,000億円 (26/3期)	9,789億円 3期累計：30,022億円
当期利益	9,200億円 (26/3期)	8,340億円
ROE	12%超 (中経2026平均)	12.5%
株主還元の割合 対基礎営業キャッシュ・フロー	37%程度 (中経2026期間累計)	53%超

基礎収益力拡大の取組み (24/3期～26/3期の3年間)		
既存事業強化 +830億円*1	効率化・ターンアラウンド +430億円	新規事業 +460億円
モビリティ (船舶、米州自動車他) +350億円強	ターンアラウンド +220億円	Industrial Business Solutions +約190億円
次世代・機能推進*2 (国内関係会社) +200億円弱	・創薬支援ファンド ・インフラ (TIACT、ブラジルJirau) ・Novus ・モロッコプロイラー事業他	・FPSO (MV32、MV33) ・Komatsu-Mitsui Maquinarias Peru ・アルティウスリンク
化学品 (メタノール、タンクターミナル他) +100億円強		Global Energy Transition +約110億円
生活産業*2 (IHH他) +100億円強		・タイガス火力 ・台湾洋上風力 ・インド大型再エネ
エネルギーソリューション (MyPower他) +100億円弱	赤字事業の撤退 +210億円	Wellness Ecosystem Creation +約160億円
	・IPP ・モビリティ ・鉄鋼製品 ・ICT関連 ・化学品関連他	・エームサービス ・IPSP ・Wadi ・Nutrinova ・Euricom

*1 各数値は概数表示のため、内訳の合計とは一致しません

*2 機構改組前の旧セグメント名で表示しています



豪州
鉄鉱石 Rhodes Ridge



西豪州ピルバラ地域に位置する、世界最大級の未開発鉄鉱床案件。Rio Tintoと共同で開発を進め、既存インフラとのシナジーも活用しながら、2030年までの生産開始を目指す。

アブダビ
Ruwais LNG



ADNOC、bp、Shell、TotalEnergiesと推進する、年間960万トン規模の大型LNGプロジェクト。2028年の生産開始を予定し、LNGの安定供給と低炭素化の両立を目指す競争力ある案件。

米国
低炭素アンモニア Blue Point



CF Industries、JERAと共同で推進する、世界最大規模の低炭素アンモニア製造事業。CCS*3活用により製造時CO₂排出を95%以上削減し、2029年の生産開始を予定。

*3 CCS (Carbon Capture and Sequestration) : 二酸化炭素の回収・貯留技術

> Introduction

- 01 CEOメッセージ
- 05 三井物産の価値創造
- 06 CFOメッセージ
- 09 中期経営計画2029
- 13 中期経営計画2026で積み上げた成長基盤
- 14 Our Reporting Approach

> Introduction

- Gate 1
- > 価値創造の原点
- Gate 2
- > 財務・ポートフォリオ戦略
- Gate 3
- > 持続的成長
- Gate 4
- > 経営基盤
- Gate 5
- > Data

Our Reporting Approach

三井物産グループは、「世界中の未来をつくる」というMissionを掲げ、事業を通じてさまざまな社会課題に対する産業横断的な現実解を提供することで成長を続けています。ステークホルダーの皆様に応じ当社グループの取り組みへのご理解を深めていただき、共に社会課題の解決に取り組んでいただくためにも、統合報告書/有価証券報告書/サステナビリティレポート/人的資本レポート等の各種開示物、及び決算情報や事業説明会等の投資家情報を通じた情報開示の充実に努めています。また、当社はフェア・ディスクロージャーの観点を中心に投資家に対する開示の基本原則*を定めており、経営会議の下部組織として設置された開示委員会にて、重要な任意開示に関する原則・基本方針の策定及び社内体制の整備にあたるとともに、法定開示や適時開示、重要な任意開示における情報の重要性や開示内容の妥当性を判定・判断しています。

 *投資家に対する開示の基本原則
<https://www.mitsui.com/jp/ja/ir/management/ethics/>

